認知症BPSD対応研修

BPSD出現時の適切な対応を考えよう

事例５　帰宅願望

日総研介護人財

【この教材のねらい】

今回配信する教材は、認知症ケア場面の事例を使い、さまざまな視点からBPSD（行動・心理症状）への対応について理解を深めていくものである。

事例の限られた情報から、どのような原因が考えられるか、どのような対応方法が考えられるかを共有し、今後の認知症ケアのヒントとして活用していただきたい。

研修の進め方①

まずは次の事例を読み上げます。

日総研介護人財

【事例5】

Eさん、80代、女性、グループホーム入所。
アルツハイマー型認知症

10年前に夫を亡くしてからは独居生活。子供2人は県外に在住。3年ほど前から認知症の症状が進行してきたため、独居生活の継続が困難となり、1年前からグループホームに入所。入所後しばらくして帰宅願望の訴えがみられるようになる。

日総研介護人財

【事例５（続き）】

夕方になると「ここにいてもすることがない。家に帰りたい」「家で夫や子どもたちが待っているから帰らんと」などの訴えがある。職員が「お家に帰られても誰もいらっしゃいませんし帰れませんよ。ここがEさんのお家なんですから、ゆっくりとくつろいでください」と説得するも、「誰もいないはずないでしょうが！夫が仕事から帰ってくるし、子どもたちもお腹を空かせて待っているの！」と怒ってしまった。

日総研介護人財

研修の進め方②

グループになり、BPSDの原因として考えられる項目を話し合います。出てきた項目をワークシートに記入して、グループ毎にいくつか発表します。

参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

ワーク1

Eさんの帰宅願望の原因を探りましょう

認知症が及ぼす影響（中核症状）や
心理面・身体面・環境面の影響など、
考えられること・思いついたことを
あげてみましょう

日総研介護人財

研修の進め方③

次の質問を参加者に投げかけ、ワークシートに記入してもらいます。

① 事例の職員の対応についてどう思うか
② どのような対応が適切だと思うか

ワーク2

この事例の職員の対応はどう感じますか？
問題と思う点をあげてください。

日総研介護人財

ワーク3

あなたならどう対応しますか？
適切な対応方法を考えてみましょう。

日総研介護人財

研修の進め方④

① 記入してもらったら、それを一人ひとり発表してもらいます。人数が多い場合は数人を指名して発表してもらいます。

② ワークシートを回収して、全員の考え方を整理し、フィードバックして、研修は終了です。

【この教材を終えるにあたって】

この研修には「正解」はありません。認知症ケアは、その人がどういう性格か、これまでどのような生活を送ってきたのか、何を望んでいるのか、などによって対応が異なるためです。

様々な対応方法を共有することで、その人に合った適切な対応ができるように「認知症ケアの引き出し」を増やしていきましょう。

日総研介護人財

お疲れ様でした。

日総研介護人財